

まえさわ



丁寧に作業を進める前沢商工会青年部の会員

お物見公園の桜再生プロジェクトに取り組んでいる前沢商工会青年部（三浦純部長、部員28人）は12月5日、同公園内にソメイヨシノの苗木2本を植樹しました。プロジェクトは「お物見公園を前沢の桜の名所として末永く守り育てていこう」と、市の地域づくり推進事業補助金を活用してことしから取り組んでいるものです。この日の植樹に先立ち、11月下旬に28人の部員全員で公園内のすべてのソメイヨシノの剪定と施肥作業を実施。三浦部長は「公園内の桜の木は、樹齢80年以上の古木ばかりになっており、毎年少しずつ植樹を継続していきたい」と話していました。

将来を見据えて着実な1歩
前沢商工会青年部が桜を植樹

まちの話題



水路の保全に小学生も一役

4校・16町内会がアドプト協定締結

乙女川（小遣堰）地区アドプト協定調印式は12月12日、胆沢平野土地改良区で行われ、協定を結ぶ小学校、町内会関係者ら約100人が出席しました。小遣堰水路は胆沢区若柳から水沢区中心部を通り、北上川に注ぐ農業用排水路で、水沢区内では乙女川水路と呼ばれて親しまれています。

今回の協定は、乙女川（小遣堰）流域に位置する若柳小、南都田小、水沢小、常盤小の4校と水沢区の16町内会が「里親」となり、「養子」となった水路の保全や環境美化活動をするものです。20団体が一度に協定に調印するのは、東北では初、国内でも最大級の規模といわれています。

このような取り組みは1885年にアメリカで始まったとされています。公共施設を地元住民や企業・団体が守っていくことで、利用者の意識が向上するなどの効果も期待されています。



協定に調印後、手をつなぎながら誓いの言葉を述べる各小学校の代表

ころもがわ

健康な体にと新年スタート 恒例の元朝マラソン大会



朝日を浴びながら走る参加者

衣川区の第25回元朝マラソン大会は1月1日、衣川山村開発センターを発着点に、八幡神社までの往復約4.5kmのコースで開かれました。ことしは一般男女、小中学生各男女の6部門合わせて100人が参加し、午前8時にスタート。約20分らずで胆沢区南都田の高橋祥基さん(33)が1位でゴールテープを切りました。ランニングチーム・TEAMアテルイのメンバー10人と参加した高橋さんは「元日にこうして健康で走れることに感謝したい。衣川の復興を心からお祈りします」と白い息を弾ませて話していました。

表情豊かに伸び伸びと熱演 ジュニアミュージカルスクール

いさわジュニアミュージカルスクールと滝沢村のNPO（特定非営利活動）法人劇団ゆうの合同公演は12月14日、胆沢文化創造センターで行われました。同スクールはことしで8年目。今回は小学1年から4年生までが友情と勇気をテーマにした「ライオンとたんぼぼ」を、小学5年から高校2年生までが宮沢賢治の世界を描いた「風の中の賢治」を披露しました。「ライオンとたんぼぼ」で主役のライオネル役を演じた松本奈菜さん（胆沢第一小4年）は「最後にたくさん大きな拍手をもらえてうれしかったです。大成功です」と満足した笑顔で話していました。



「ライオンとたんぼぼ」の一場面

いさわ

えさし

すがすがしい舞で新年祝う 小学生が元日に神楽を披露



御神楽を踊る小田代こども神楽

江刺区田原の小田代こども神楽は1月1日、元日恒例となっている小田代新年交賀会で「御神楽」を披露しました。こども神楽は、小田代神楽保存会（及川章座元）が神楽を子どもたちに知ってもらおうと10数年前から取り組みはじめ、平成16年から正式に保存会の組織として活動しています。現在は、小学2年から6年までの12人が週1回の練習に汗を流しています。踊りを終えた及川哲夫君（田原小6年）は「大勢の人の前で踊るのは緊張するけど、もう5年も続けているので楽しく踊れました」と、元日にふさわしい晴れやかな表情で話していました。

友と心を合わせ希望の舞を 水沢区42歳厄年連が演舞初披露

平成21年度の水沢区42歳厄年連「勇申会」（菅原広一 会長）は1月1日、プラザイン水沢で総会と懇親会を開き、日高火防祭で踊る創作演舞を初披露しました。総会に続いて行われた懇親会は、会員や恩師ら約300人が出席。初めに菅原会長が「会の活動を伝え、本番に向けて盛り上げていきたい」とあいさつし、活躍を誓いました。その後、赤と黒を基調としたラテン調の衣装に身を包んだ踊り手が登場。南部俵つみ唄や甲午にちなんだ歌をアレンジした演舞「友心希望の舞」を披露して、会場を沸かせました。2月から本格的な練習を開始し、本番に備えます。



来賓を前に演舞を披露する勇申会

みずさわ